

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-89358

(P2010-89358A)

(43) 公開日 平成22年4月22日(2010.4.22)

(51) Int.Cl.
B43L 19/00 (2006.01)F I
B43L 19/00

テーマコード (参考)

H

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願2008-260925 (P2008-260925)
(22) 出願日 平成20年10月7日 (2008.10.7)(71) 出願人 505091905
ゼネラルテクノロジー株式会社
大阪府大阪市城東区中央2丁目15番20号
(74) 代理人 100089462
弁理士 溝上 哲也
(74) 代理人 100116344
弁理士 岩原 義則
(74) 代理人 100129827
弁理士 山本 進
(72) 発明者 小林 俊博
大阪府大阪市城東区中央2丁目15番20号 ゼネラルテクノロジー株式会社内
(72) 発明者 平田 周孝
大阪府大阪市城東区中央2丁目15番20号 ゼネラルテクノロジー株式会社内

(54) 【発明の名称】ホルダー及び転写具

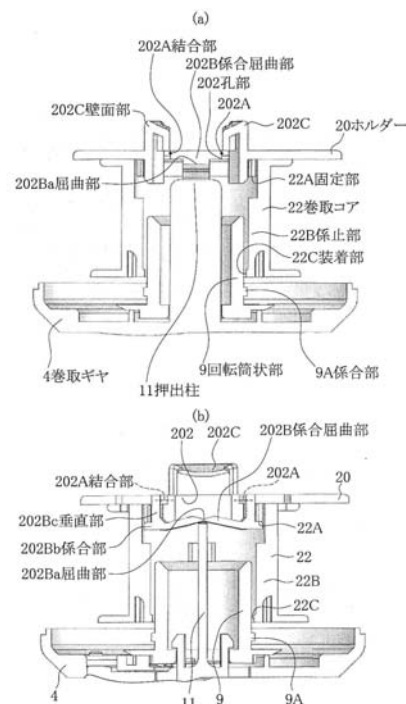
(57) 【要約】

【課題】従来の詰替型の転写具では、安全かつ容易でしかも確実にホルダーを用いて送出コアと巻取コアとを詰め替えることができない点を解消する。

【解決手段】ホルダー20は、孔部201、202の内周に傾動自在に設けられると共に、屈曲部201Ba、202Ba及び係合部201Bb、202Bbが設けられた係合屈曲部201B、202Bと、孔部201、202の外周縁部に立設され、屈曲部201Ba、202Baの最大屈曲高さ以上の高さとした壁面部201C、202Cとを備えている。

【効果】屈曲部が屈曲すると送出コア及び巻取コアの係合が解除されて容易にホルダーを除去することができる共に、このとき壁面部より低い位置で屈曲部が屈曲するから該屈曲部が手指に接触しない。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

使用済みの、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、この送出コアから送り出される転写テープのうちの基材を巻き取る巻取コアとを詰め替えるべく、新たな送出コアと巻取コアを配置した状態で筐体に装着し、装着後に筐体から除去される詰替型転写具のホルダーにおいて、送出コアと巻取コアの各々に軸芯を中心とした孔部と、前記孔部の内周に傾動自在に設けられると共に、送出コア及び巻取コアを筐体に装着する方向とは反対に屈曲する屈曲部及びこの屈曲時に送出コア及び巻取コアとの係合を解除し、屈曲していない時に送出コア及び巻取コアと係合する係合部が設けられた係合屈曲部と、前記孔部の外面周縁部に立設され、前記屈曲部の最大屈曲高さ以上の高さとした壁面部と、を備えたことを特徴とするホルダー。

10

【請求項 2】

送出コアと巻取コアの内周面に、ホルダーの係合屈曲部と係合する固定部を形成したことを特徴とする請求項 1 記載のホルダー。

【請求項 3】

送出コアと巻取コアの内周面に、筐体側と係合して装着される装着部を形成したことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のホルダー。

【請求項 4】

筐体側の回転動力に伴って送出コアと巻取コアを回転させるべく、送出コアと巻取コアの内周面に所定間隔を存して軸長さ方向に突出した係止部を形成したことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のホルダー。

20

【請求項 5】

請求項 1 又は 2 のホルダーにより新たな送出コアと巻取コアを詰め替える転写具において、該送出コアと巻取コアの内周に挿入されると共に筐体側の回転動力と連動して回転する回転筒状部と、回転筒状部の中央部位の筐体内面に、前記ホルダーを筐体に装着した際に該ホルダーの屈曲部を屈曲させる押出柱を設けたことを特徴とする転写具。

【請求項 6】

請求項 3 のホルダーにより新たな送出コアと巻取コアが詰め替えられる転写具において、回転筒状部の外周面に、前記ホルダーの装着部と係合する係合部を形成したことを特徴とする請求項 5 記載の転写具。

30

【請求項 7】

請求項 4 のホルダーにより新たな送出コアと巻取コアが詰め替えられる転写具において、回転筒状部の外周面に、前記ホルダーの係止部と当接して回転を同期させる回転同期部を形成したことを特徴とする請求項 5 又は 6 に記載の転写具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、使用済みの、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、送出コアから送り出される転写テープのうちの基材を巻き取る巻取コアとを新たなものに詰め替えるに際し、安全かつ容易でしかも確実に行うことができるホルダー及び転写具に関する。

40

【背景技術】**【0002】**

長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、この送出コアから送り出された転写テープのうち被転写体に塗膜が転写された残りの基材を巻き取る巻取コアと、を備え、前記巻取コアに基材が全て巻き取られて使用が完了した際に、それまで使用していた送出コア及び巻取コアを筐体から取り出して、平板状のホルダーに配置された新たな送出コアと巻取コアを詰め替える、いわゆる詰替型の転写具が知られている。

【0003】

この種（詰替型）の転写具において、筐体側に詰め替えるべき部材を装着する技術、す

50

なわち本願に関連する文献として、以下の特許文献 1 及び特許文献 2 を開示した。

【特許文献 1】特開 2 0 0 1 - 2 1 3 4 9 3 号公報

【特許文献 2】特開平 6 - 2 8 6 9 2 7 号公報

【0 0 0 4】

特許文献 1 は、上記転写具において詰め替え後にホルダーだけを取り外す点に関して、記憶媒体ディスク（例えば C D : Compact Disc）を収納ケースから容易に取り出すための技術が開示されている。

【0 0 0 5】

すなわち、特許文献 1 は、指で押さえる方向に屈曲する接合軸から外側に延設された傾動部分の外縁部分に、C D の表裏方向に亘って形成されると共に C D の中央孔と係合するディスク係合部と、このディスク係合部の傾動部分が位置する側と反対側において接合軸に対して外側方向に延設されたディスクリフト部材と、を有した構成である。

【0 0 0 6】

特許文献 1 は、接合軸を指で抑えると該接合軸が谷状に屈曲すると共に傾動部分が該接合軸を中心に傾動し、これに伴ってディスク係合部同士の間隔が C D の中央孔の径より小さくなると共に、ディスクリフト部材が C D の裏面側を押し上げる。

【0 0 0 7】

特許文献 2 は、上記転写具においてホルダーに送出コア及び巻取コアを配置して筐体に装着する点が開示されている。

【0 0 0 8】

すなわち、特許文献 2 は、送出コア及び巻取コアには軸端から順に大径部と小径部が形成されており、ホルダーには該送出コア及び巻取コアが装着される孔の周囲に切欠きが形成されることで表裏方向に弾性変形する舌片が形成されている。

【0 0 0 9】

特許文献 2 は、送出コア及び巻取コアの軸をホルダーの孔に装着する際、大径部を乗り越えるために舌片が弾性変形し、小径部に至る際に該舌片が弾性復元して、該大径部と舌片（孔の内周部）とが係合する。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 1 0】

しかしながら、特許文献 1 は、接合軸を中心に傾動部材が谷状に屈曲するように傾動し、これに伴ってディスク係合部同士の間隔が C D の中央孔の径より小さくなると共に、ディスクリフト部材が C D の裏面側を押し上げるように構成されているため、該傾動部材の谷状の屈曲で（接合軸を押した）指を挟んでしまうといった問題がある。

【0 0 1 1】

一方、特許文献 2 は、送出コアや巻取コアを筐体に装着する点は開示されているものの、ホルダー自体も筐体に装着し、送出コアと巻取コアの装着後に筐体から除去する構成とはなっていない。ここで、特許文献 2 に特許文献 1 を採用した場合は、次のような新たな問題が生じる。

【0 0 1 2】

特許文献 2 は、ホルダーの面に、舌片が形成された孔を有しており、送出コア及び巻取コアの軸の外周で小径部とが該孔と係合し、この軸の内周側では筐体に設けられたギヤ軸部が挿入される構成とされている。

【0 0 1 3】

つまり、送出コアと巻取コアを筐体に取り付ける際にホルダーを押す方向と、ギヤ軸部がホルダーに形成された孔に挿入される方向とが相反するから、特許文献 1 の構成を採用すると、接合軸を指で押す方向（例えば下方）と反対の方向（例えば上方）にギヤ軸が移動するから、傾動部材が傾動せず該特許文献 1 の作用効果を得ることができない。

【0 0 1 4】

仮に特許文献 1 の構成において、接合軸がギヤ軸によって押されて該接合軸が山状に屈

10

20

30

40

50

曲する構成であったとすると、今度は、ホルダーの面から接合軸がユーザーによる操作側に突出して、指に接合軸が刺さってしまうなどの不具合が生じる。

【 0 0 1 5 】

本発明が解決しようとする問題点は、特許文献 1 は傾動部材の谷状の屈曲で接合軸を押した指を挟んでしまう点、特許文献 2 はホルダーを筐体から取り外す構成とはなっていない点、及び特許文献 1 を特許文献 2 に採用すると傾動部材が傾動せず該特許文献 1 の作用効果を得ることができなかつたり、指に接合軸が刺さってしまうなどの不具合が生じる点、すなわち特許文献 1 及び特許文献 2 では、安全かつ容易でしかも確実にホルダーを用いて送出コアと巻取コアとを詰め替えることができない点、である。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 6 】

上記の問題を解決するために、本発明のホルダーは、送出コアと巻取コアの各々に軸芯を中心とした孔部と、孔部の内周に傾動自在に設けられると共に、送出コア及び巻取コアを筐体に装着する方向とは反対に屈曲する屈曲部及びこの屈曲時に送出コア及び巻取コアとの係合を解除し、屈曲していない時に送出コア及び巻取コアと係合する係合部が設けられた係合屈曲部と、孔部の外面周縁部に立設され、屈曲部の最大屈曲高さ以上の高さとした壁面部と、を備えたものである。

【 0 0 1 7 】

また、本発明の転写具は、該送出コアと巻取コアの内周に挿入されると共に筐体側の回転動力と連動して回転する回転筒状部と、回転筒状部の中央部位の筐体内面に、本発明のホルダーを筐体に装着した際に該ホルダーの屈曲部を屈曲させる押出柱を設けたものである。

【発明の効果】

【 0 0 1 8 】

本発明の転写具に対して本発明に係るホルダーを用いて送出コアと巻取コアを装着するとき、次の作用効果を得ることができる。ホルダーは、孔部と、屈曲部及び係合部が設けられた係合屈曲部とを有するので、詰め替えるまでホルダーに送出コア及び巻取コアを固定的に配置、つまりホルダーと送出コア及び巻取コアとを一体的に扱うことができる。

【 0 0 1 9 】

また、ホルダーは、係合屈曲部により、ホルダーによって送出コア及び巻取コアを筐体に装着するまでは該送出コア及び該巻取コアがホルダーに安定的に（一体的に）に配置されて、装着する際に該送出コア及び該巻取コアとホルダーとの係合が解除されるから、容易かつ確実に該送出コア及び該巻取コアを筐体に装着することが可能であると共に、ホルダーを筐体から除去することができる。

【 0 0 2 0 】

転写具は、回転筒状部の中央部位の筐体内面に押出柱を設けることにより、ホルダーを筐体に装着する方向に押すと、相対的に該押出柱が屈曲部をホルダーを筐体に装着する方向とは反対方向に押し、該屈曲部を屈曲させることができる。

【 0 0 2 1 】

このとき、ホルダーの孔部からは、押出柱により屈曲した屈曲部が突出することになるが、該ホルダーに設けられた壁面部により、屈曲部が屈曲したときの孔部からの突出部分がホルダーを押す指に接触することがなく、したがって、安全に送出コア及び巻取コアを筐体に装着する作業を行うことができる。

【 0 0 2 2 】

そして、屈曲部が屈曲すると、ホルダーと送出コア及び巻取コアとの係合部による係合が解除され、該送出コア及び巻取コアは筐体側へ速やかに移動し、したがって、ホルダーだけを容易に除去できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 2 3 】

本発明は、図 1 ～ 図 7 に示す形態により実施可能である。図 1 は本発明の転写具を部分

10

20

30

40

50

的に示す。図 2 及び図 3 は本発明のホルダーを示す。図 4 は筐体に（送出コア及び）巻取コアを装着する直前の状況を示す。図 5 は筐体に（送出コア及び）巻取コアを装着する直後の状況を示す。図 6 は（送出コア及び）巻取コアを示す。図 7 は回転筒状部（巻取側）を示す。

【0024】

なお、以下、本発明の特徴となる構成については参照番号を付して説明するが、その他の構成については説明、図示及び参照番号を省略している。また、図において、見にくくなる点を考慮して図 4 及び図 5 などでは一部断面ハッチングを省略している。

【0025】

図 1 に示す転写具 1 は、本体部 2 A 及びこの本体部 2 A に対して例えば取り外しが可能とされた蓋部（不図示）とからなる筐体 2 において、前記蓋部を本体部 2 A から外すと共に使用済みの、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープ T を巻装した送出コア 2 1 と、この送出コア 2 1 から送り出される転写テープ T のうちの基材を巻き取る巻取コア 2 2 を取り出した状態を示している。

10

【0026】

本例の転写具 1 は、例えば筐体 2 の本体部 2 A に、送出コア 2 1 を回転させる送出ギヤ 3 と、巻取コア 2 2 を回転させる巻取ギヤ 4 と、これら送出ギヤ 3 と巻取ギヤ 4 とに噛合した中間ギヤ 5 とを有している。

【0027】

また、本体部 2 A 側には、送出コア 2 1 及び巻取コア 2 2 を装着した状態において、該送出コア 2 1 から巻取コア 2 2 に至る転写テープ T の搬送経路途中に、先端が筐体 2 から突出するように設けられた転写部 6 が設けられている。

20

【0028】

さらに、筐体 2 には、転写具 1 の未使用時に上記転写部 6 を覆い、使用時に転写部 6 を露出させるカバー 7 が軸 7 a を回動可能に枢支した状態で設けている。図 1 では、カバー 7 は、本体部 2 A 側に配置した例を示している。

【0029】

上記構成における転写具 1 は、さらに、送出コア 2 1 と巻取コア 2 2 の内周に挿入されると共に、該送出コア 2 1 と該巻取コア 2 2 の回転動力とされる送出ギヤ 3 と巻取ギヤ 4 と連動して回転する回転筒状部 8 , 9 を有している。

30

【0030】

この回転筒状部 8 , 9 は、本例では、例えば、送出ギヤ 3 と巻取ギヤ 4 に対して設けられており、後述する押出柱 1 0 , 1 1 に同様に枢支されて回転する。なお、例えば、回転筒状部 8 と送出ギヤ 3 との間（送出側）にいわゆるスリップ機構が設けられ、回転筒状部 9 と巻取ギヤ 4 （巻取側）とは一体とした構成であってもよい。

【0031】

回転筒状部 8 , 9 の各々には、本例では、送出ギヤ 3 と巻取ギヤ 4 が位置する方向の端部における外周面に、軸方向に所定幅とされ、周方向に突出した係合部 8 A , 9 A が形成されている。この係合部 8 A , 9 A は、後述する送出コア 2 1 及び巻取コア 2 2 の内周に形成された装着部 2 1 C , 2 2 C と装着時に係合する。

40

【0032】

また、回転筒状部 8 , 9 の各々には、本例では、外周面において所定角度間隔で例えば送出側では 4 箇所、巻取側では 3 箇所に、平面視三角形とされ、軸方向に突出した回転同期部 8 B , 9 B が形成されている。この回転同期部 8 B , 9 B は、後述する送出コア 2 1 及び巻取コア 2 2 の内周に形成された係止部 2 1 B , 2 2 B と装着時に当接する。

【0033】

なお、上記回転筒状部 8 , 9 、係合部 8 A , 9 A 、及び回転同期部 8 B , 9 B については、回転筒状部 8 , 9 を代表して図 7 の巻取側（回転筒状部 9 ）により示している。

【0034】

さらに、筐体 2 の本体部 2 A には、送出ギヤ 8 A 及び巻取ギヤ 9 A 、並びに回転筒状部

50

8, 9の中央部位に位置し、これらを枢支すると共に、後述するホルダー20を筐体2に装着した際に、該ホルダーの後述する屈曲部201Ba, 202Baを屈曲させる押出柱10, 11が設けられている。この押出柱10, 11は、回転筒状部8, 9の軸方向の高さより高く、筐体2の幅(厚み)よりは低くされている。

【0035】

一方、図2及び図3に示すホルダー20は、次のように構成されている。ホルダー20は、平板状とされ、(新たな)送出コア21と巻取コア22に予め転写テープTが掛けられた状態で配置されている。

【0036】

ここで、ホルダー20に配置される送出コア21と巻取コア22の構成を説明する。送出コア21と巻取コア22は、本例では、ホルダー20における配置側の端縁内周面に、例えば所定角度間隔で中心方向に突出して、後述するホルダー20の係合屈曲部201B, 202Bの係合部201Bb, 202Bbと係合する固定部21A, 22Aが形成されている。

10

【0037】

また、ホルダー20における送出コア21と巻取コア22の配置側と反対側の端縁内周面には、筐体2側の回転筒状部8, 9の回転同期部8B, 9Bと当接して周方向の移動に対して互いを係止する係止部21B, 22Bが形成されている。

【0038】

係止部21B, 22Bは、送出コア21と巻取コア22の内周面から所定距離を存して中心に向けて、軸長さ方向に突出させた柱状の部材であり、その上端部が該内周面と結合している。つまり、係止部21B, 22Bは、下端部が内周面から距離の分だけ外径方向に弾性変形が可能とされている。

20

【0039】

また、係止部21B, 22Bは、本例では例えば送出側に5箇所、巻取側に4箇所とされ、どの周方向位置で筐体2に装着しても回転同期部8B(4箇所), 9B(3箇所)と即座に当接して、回転に必要な以上の遊びが生じないようにしている。

【0040】

本例では、この係止部21B, 22Bの下端部に、筐体2側の回転筒状部8, 9における係合部8A, 9Aと係合して装着される装着部21C, 22Cが形成されている。この装着部22C, 22Cは、係止部21B, 22Bの中心側の面に、さらに中心方向に突出している。

30

【0041】

装着部21C, 22Cは、本例では、筐体2への装着時に、装着部21C, 22Cの弾性変形により係合部8A, 9Aを越え、弾性復元により該係合部8A, 9Aと上下方向に係合する。これにより、装着後の送出コア21と巻取コア22が、筐体2から容易に外れることが防止される。

【0042】

なお、上記送出コア21及び巻取コア22、係止部21B, 22B、装着部21C, 22Cについては、送出コア21及び巻取コア22を代表して図6の巻取側(巻取コア21)により示している。

40

【0043】

上記構成の送出コア21及び巻取コア22を配置したホルダー20は、次の構成とされている。ホルダー20は、表裏面を貫通し、送出コア21と巻取コア22の軸を中央とした本例では例えば長円の孔部201, 202と、筐体2に装着したときに転写部6の一部が嵌入する嵌入孔20aが形成されている。

【0044】

嵌入孔20aの、送出コア21と巻取コア22を配置する側の面には、ホルダー20において転写テープTを掛けるための掛止部20bが立設されている。この嵌入孔20aと掛止部20bにより、ホルダー20を筐体2に装着し、後にホルダー20を筐体2から除

50

去するだけで、転写テープ T が転写部 6 に掛けられた状態とすることができ、ホルダー 20 を筐体 2 に装着後にわざわざ転写テープ T を転写部 6 に掛ける作業が省かれる。

【0045】

孔部 201, 202 の内周面、本例では例えば長円状の該孔部 201, 202 の各々の、対向する直線部の 4 箇所に結合部 201A (4 個), 202A (4 個) が設けられている。この結合部 201A, 202A は、本例ではひも状とされ、後述する係合屈曲部 201B, 202B を孔部 201, 202 にそれぞれ傾動自在に結合するものである。

【0046】

係合屈曲部 201B, 202B は、次の構成とされている。なお、係合屈曲部 202B (巻取側) により代表して説明する。係合屈曲部 202B は、図 4 (b) 及び図 5 (b) に示すように、側面 (断面) 視で略凹字状とされた部材であり、凹字の中央水平部の中心位置に屈曲部 202Ba が形成されている。

【0047】

係合屈曲部 202B は、ホルダー 20 を筐体 2 に装着したとき、押出柱 11 によりこの屈曲部 202Ba を中心に、係合屈曲部 202B が全体として略 W 字状に屈曲する。

【0048】

係合屈曲部 202B の屈曲部 202Ba が形成された部位を中心とした両端位置には、該屈曲部 202Ba が屈曲していないときに巻取コア 22 の固定部 22A に係合し、該屈曲部 202Ba が屈曲したときに係合が解除される係合部 202Bb, 202Bb が形成されている。

【0049】

また、係合屈曲部 202B は、屈曲部 202Ba から係合部 202Bb, 202Bb に至る各々の途中箇所に、垂直部 202Bc, 202Bc が形成されており、この垂直部 202Bc, 202Bc の幅方向両端の上部が、上記結合部 202A と結合している。

【0050】

再び、送出側と巻取側の両方で説明する。孔部 201 (送出側) と孔部 202 (巻取側) の各々において、送出コア 21 と巻取コア 22 を配置する側と反対の面の周縁部には、前記屈曲部 201Ba, 202Ba の最大屈曲高さより高くされた壁面部 201C, 202C が設けられている。

【0051】

この壁面部 201C, 202C は、ホルダー 20 を筐体 2 に装着した際に、押出柱 10, 11 により該ホルダー 20 の孔部 201, 202 からユーザー側に突出する屈曲部 201Ba, 202Ba が、操作した指に刺さったり、触れないように保護するためのものである。

【0052】

上記構成の転写具 1 に対して新たな送出コア 21、巻取コア 22 を、ホルダー 20 を用いて装着するには次のようにして行う。転写具 1 は、筐体 2 の蓋部を開けて、使用済みの送出コア 21 と巻取コア 22 が取り外された状態、すなわち図 1 の状態とされている。

【0053】

一方、ホルダー 20 は、新たな送出コア 21 と巻取コア 22 とが配置され、掛止部 20b に転写テープ T が掛けられた状態、すなわち図 2 及び図 3 の状態とされている。

【0054】

筐体 2 に装着直前と装着直後の、ホルダー 20 と送出コア 21 及び巻取コア 22 について、図 4 及び図 5 を参照して、送出側と巻取側を代表して、以下、巻取側で説明する。なお、図 4 及び図 5 における、各図 (a) は図 1 ~ 図 3 の A - A 線断面を、各図 (b) は図 1 ~ 図 3 の B - B 線断面を、各々示している。

【0055】

巻取コア 22 の固定部 22A は、ホルダー 20 の、屈曲部 202Ba が未だ屈曲していない状態の係合部 202Bb と係合している。また、係合屈曲部 202B はホルダー 20 の孔部 202 に結合部 202A により結合している。これにより巻取コア 22 はホルダー

10

20

30

40

50

20から移動することなく固定的に配置されている。

【0056】

図4のように筐体2に装着前の巻取コア22は、押出柱11が屈曲部202Baを屈曲させておらず、また、巻取コア22の装着部22Cが回転筒状部9の係合部9Aと係合していない。なお、巻取コア22の係止部22Bは、該巻取コア22に回転筒状部9が嵌入したときから該回転筒状部9の回転同期部9Bと当接している。

【0057】

この後、壁面部202Cなどを押してホルダー20を本体部2A側に移動させると、図5に示すように、ホルダー20（巻取コア22）の移動により押出柱11が該ホルダー20側に相対移動し、このとき、該押出柱11の頂上先端が屈曲部202Baを、該ホルダー20を押す方向とは反対の方向に屈曲させる。

10

【0058】

ホルダー20を本体側2Aに押すことで押出柱11により屈曲部202Baが孔部202から突出するように山状に屈曲すると同時に、係合屈曲部202Bが略W字状に変形し、係合部202Bbと巻取コア22の固定部22Aとの係合が解除される。

【0059】

そして、巻取コア22の装着部22Cが、係止部22Bの弾性変形により回転筒状部9の係合部9Aを乗り越えて係合すると、巻取コア22は完全に本体部2A側、すなわち筐体2に装着されたこととなり、かつ巻取コア22とホルダー20との結合関係も無くなるので、ホルダー20だけを容易に除去できる。

20

【0060】

このとき、屈曲部202Baは、孔部202から突出するが、仮に壁面部202Cを押して上記一連の装着作業を行うとしても、壁面部202Cは該屈曲部202Baの最大屈曲高さ以上の高さとされているので、指に刺さったり接触することがない。したがって、本発明の転写具1は、本発明のホルダー20を用いて、安全かつ容易でしかも確実に送出コア21と巻取コア22とを詰め替えることができる。

【図面の簡単な説明】

【0061】

【図1】本発明の転写具における筐体の本体部の内部を示す斜視図である。

【図2】本発明のホルダーにおける送出コア及び巻取コアを配置した側と反対側の面を示す斜視図である。

30

【図3】本発明のホルダーにおける送出コア及び巻取コアを配置した側の面を示す斜視図である。

【図4】本発明の転写具に本発明のホルダーを用いて送出コア及び巻取コアを装着する直前の状況を説明するための、(a)は図1～図3のA-A線断面図、(b)は図1～図3のB-B線断面図、である。

【図5】本発明の転写具に本発明のホルダーを用いて送出コア及び巻取コアを装着した直後の状況を説明するための、(a)は図1～図3のA-A線断面図、(b)は図1～図3のB-B線断面図、である。

【図6】本発明のホルダーにおける送出コアと巻取コアの要部を示す、巻取側のみの部分拡大斜視図である。

40

【図7】本発明のホルダーにおける回転筒状部の要部を示す、巻取側のみの部分拡大斜視図である。

【符号の説明】

【0062】

1 転写具

2 筐体

2A 本体部

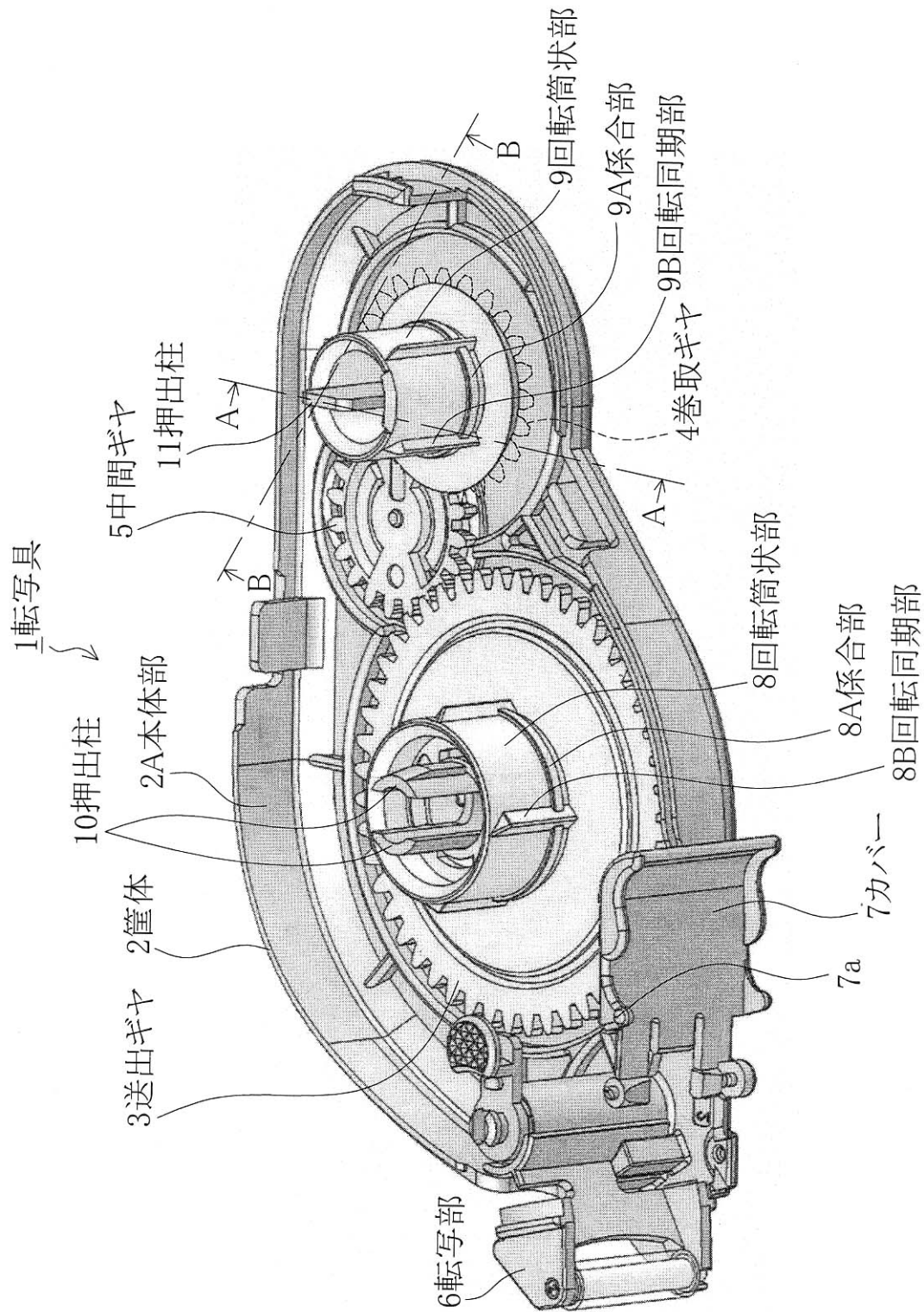
8, 9 回転筒状部

8A, 9A 係合部

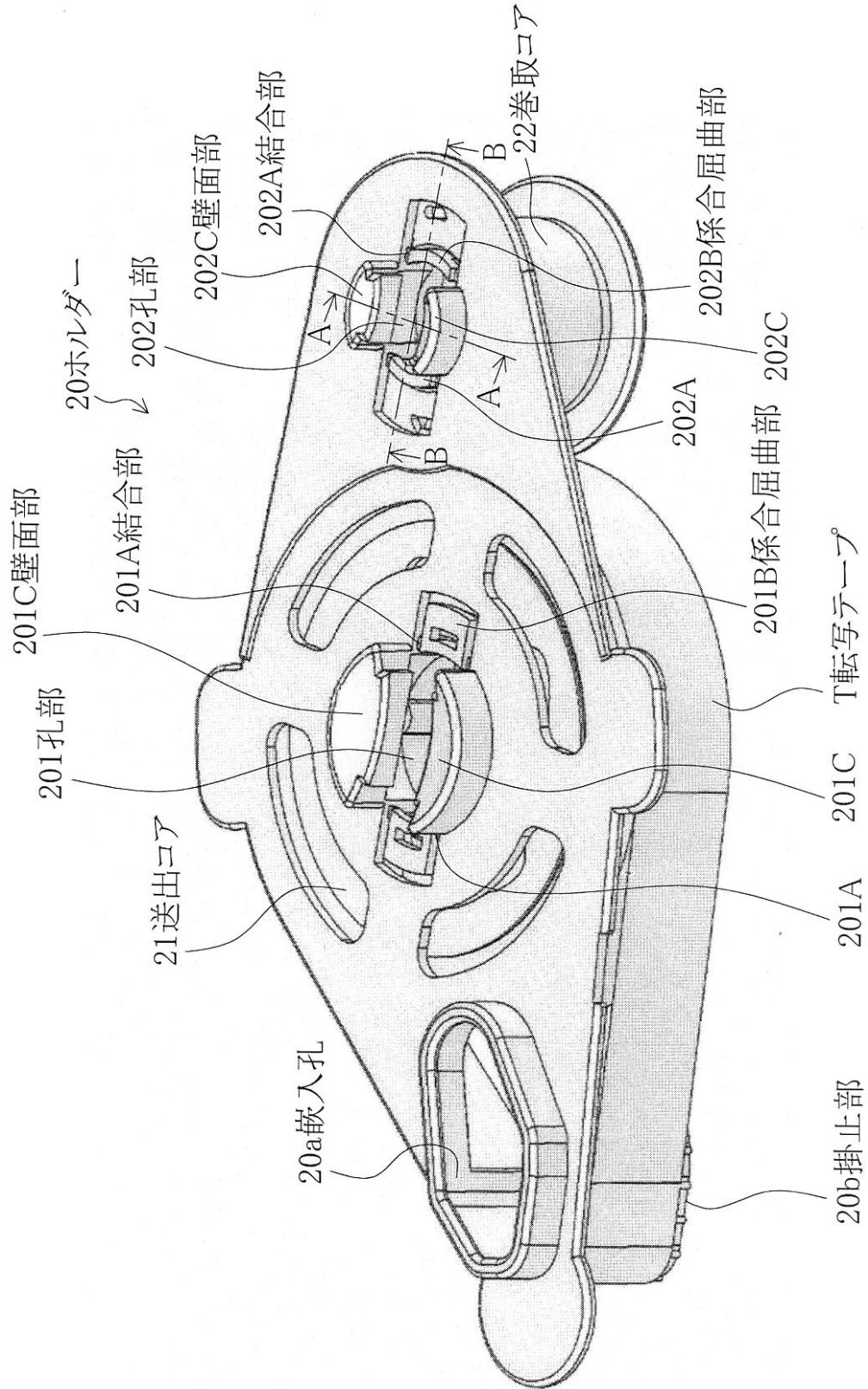
50

8 B , 9 B 回 転 同 期 部
1 0 , 1 1 押 出 柱
2 0 ホ ル ダ ー
2 0 1 , 2 0 2 孔 部
2 0 1 A , 2 0 2 A 結 合 部
2 0 1 B , 2 0 2 B 係 合 屈 曲 部
2 0 1 B a , 2 0 2 B a 屈 曲 部
2 0 1 B b , 2 0 2 B b 係 合 部
2 0 1 C , 2 0 2 C 壁 面 部
2 1 送 出 コ ア
2 2 巻 取 コ ア
2 1 A , 2 2 A 固 定 部
2 1 B , 2 2 B 係 止 部
2 1 C , 2 2 C 装 着 部
T 転 写 テ ー プ

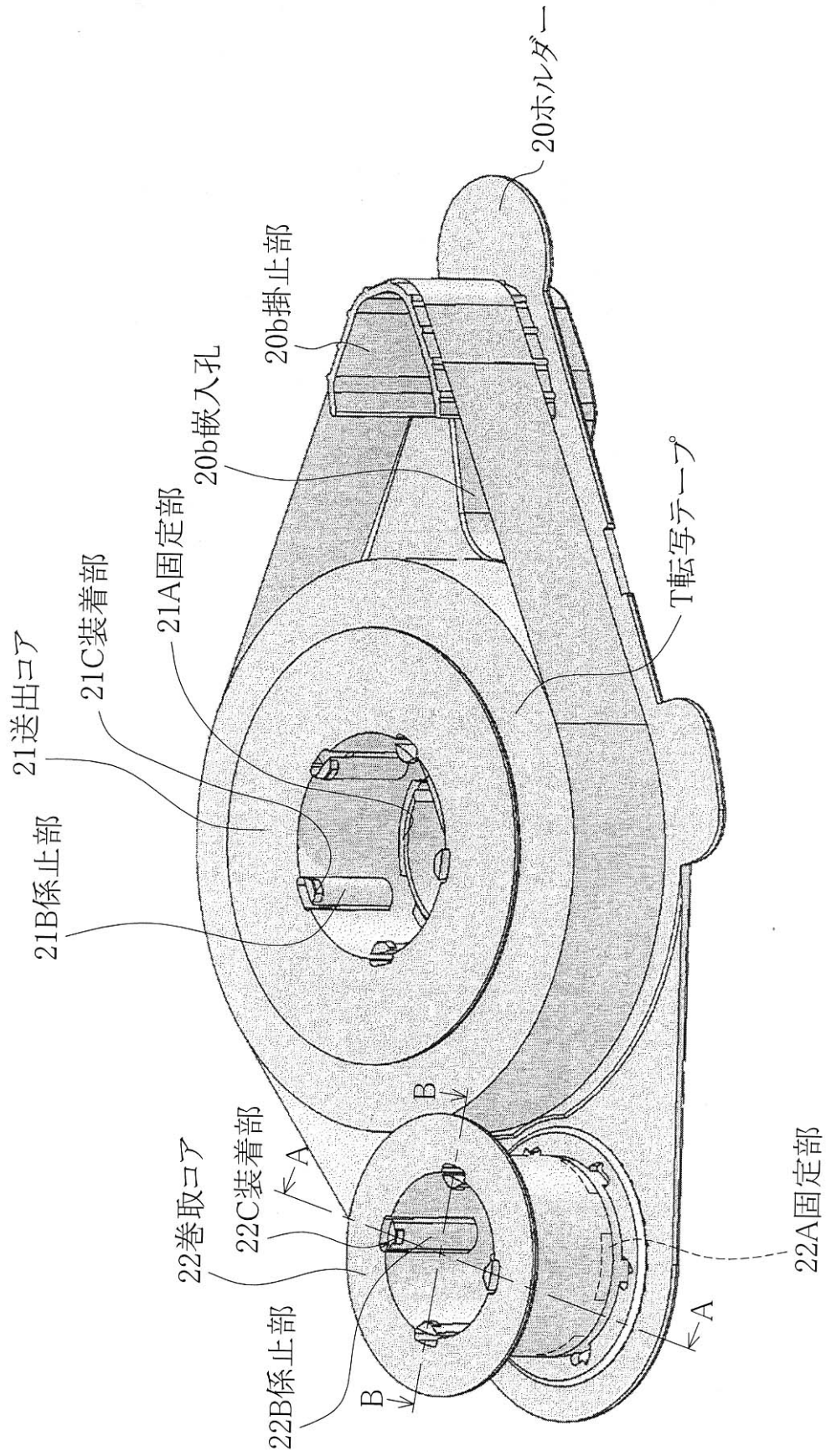
【図 1】



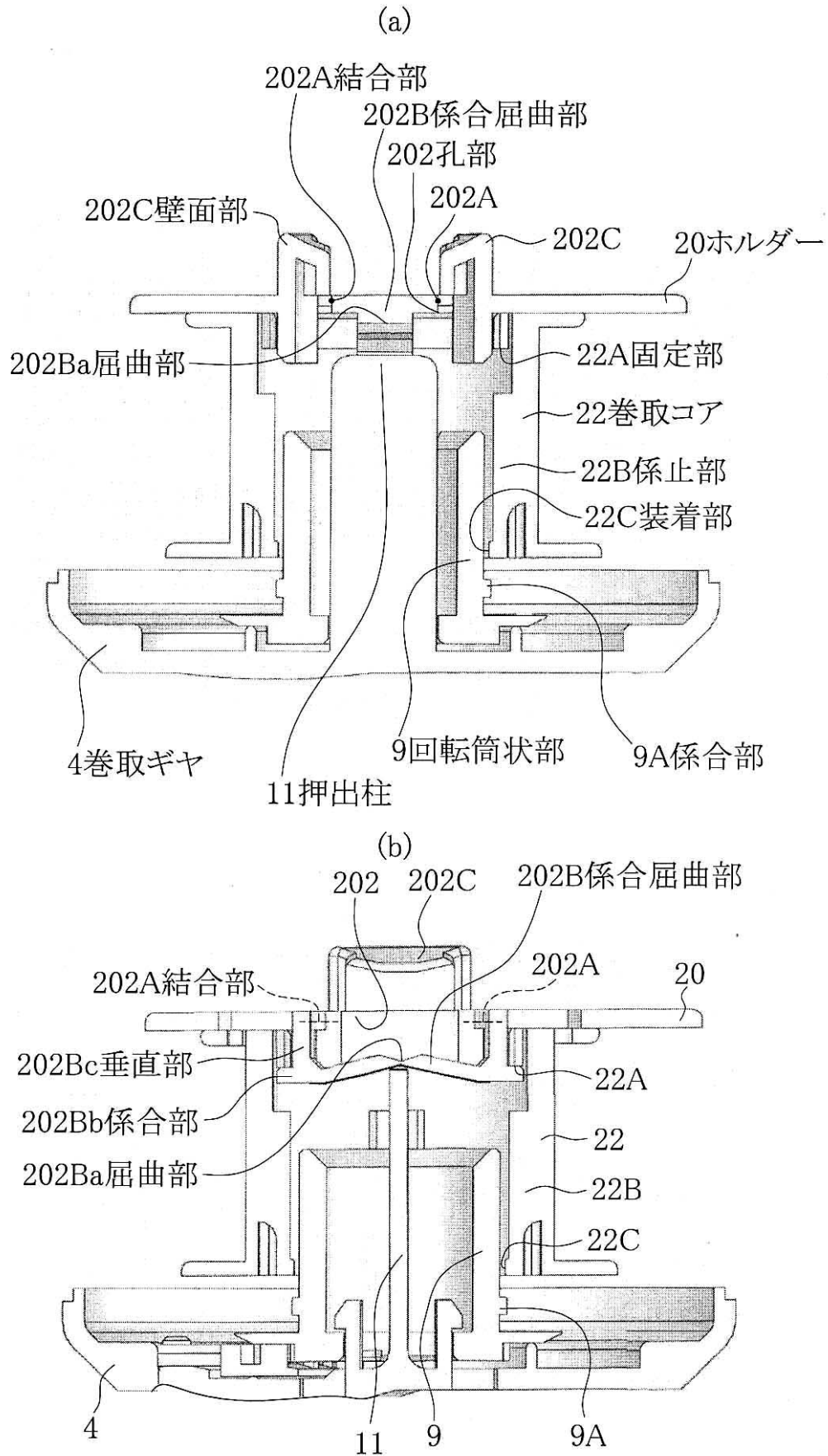
【図2】



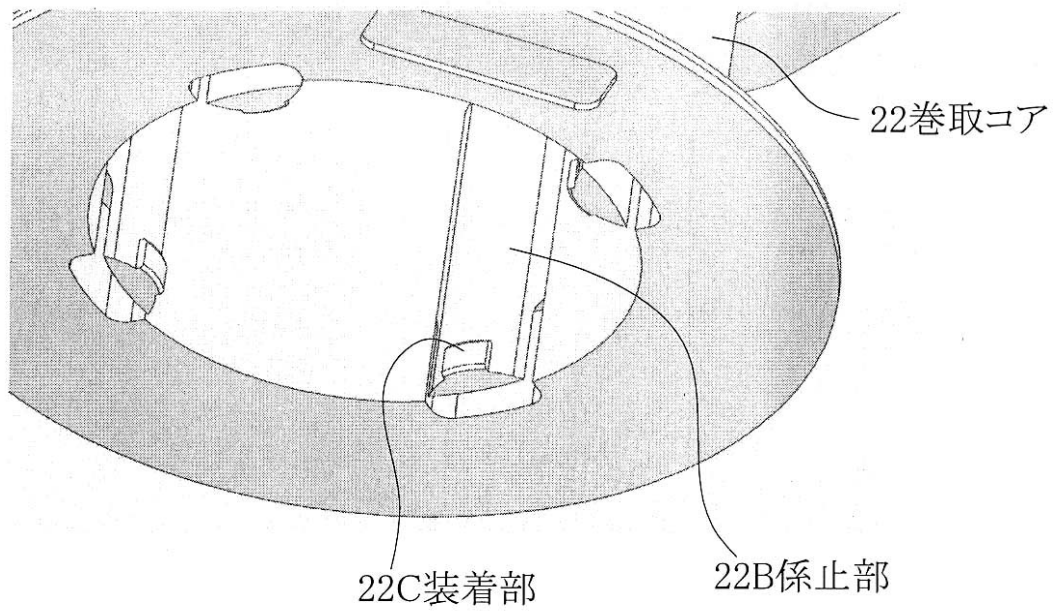
【図 3】



【図4】



【図6】



【図7】

